

上川町 層雲峡 ビジターセンター



【雪解けの農耕地で採食するコハクチョウ / 上川町内 4月】

コハクチョウ

4月になると雪解けがすすんだ上川町内の農耕地では、北海道や本州各地で越冬していた白鳥の群れが観察されるようになります。上川町周辺に飛来する白鳥の群れは、ここ数年、3月下旬頃から見られ4月中旬にかけてピークとなります。飛来数は毎年変動しますが、一ヶ所で観察される数としては60～100羽前後の群れが見られます。白鳥はその後、繁殖地のある北極圏に向けて北上していきます。



【開花し始めたミズバショウ】

山の奥



チビターニュース
2010.4.28(水) 第40号
発行/チビター編集部
開館時間
6月~10月 8:00~17:30
11月~5月 9:00~17:00

今月のチビたねは

ホシガラスです



「それぞれの春」

ふきのとう 3月4日

ふんわりと積もった今朝の雪は、昨日までの雑多な足跡を覆い隠すのにちょうどよく、雪原はまた新しくリセットされていました。緩んだ谷間から落ちた茶色い雪崩後も、純白のブロックに生まれ変わり、顔をのぞかせたフキノトウの一步手前の所でかろうじて留まっています。フキノトウはフキノトウで己に振りかからんとしていたそんな一切に関しても、何事もなかったかの様に、ただ空に向かって花を開かんとしています。3月とはいっても、まだ氷点下まで冷えこむ日は続きます。其れも承知の上、花の衣は霜に焼けすっかり茶色くなっても、春を待つ姿というものはたくましくものです。



積雪深

3月30日



本州では、梅や桜の花が咲き始めているようですが、層雲峡や大雪の山々ではまだ多くの雪が残り、冬の寒さに覆われています。積雪深も30日現在で、旭川48センチ、層雲峡110センチ、黒岳7合目350センチとなっており、積雪量自体はどの地点もほぼ平年並みとなっています。層雲峡などの山沿いの地域では、時折、日差しも強く春めいた日もありますが、4月下旬までは降雪があり、一時的な大雪も珍しくないので、本格的な春にはもう少し時間がかかりそうです。

福寿草

4月10日

二三日は暖かい日が多く、層雲峡周辺の雪解けも随分と進みましたが、朝晩の気温は氷点下と冷え込みも厳しく、花々の開花にはもう少し時間がかかりそうです。

しかし、層雲峡から20キロほど離れた上川公園ではフクジュソウが花を咲かせ、周辺の林ではモズやホオジロの姿も見られるようになり、大雪山の麓にも着実に春の気配が感じられるようになってきました。



冬眠明け

4月20日



層雲峡周辺の沢沿いを歩いていると、遠くの斜面に黒々とした点々が延々と続いていたので近づいてみると、遠くから見えた黒い点は雪面に残された熊の足跡でした。周囲を見渡しながら熊がいないことを確認して足幅を測ると15、4センチ程あり、足跡から見てオスの成獣と判断しました。熊は数時間前にこの場所を通過したようで、まだ爪痕もはっきりと雪面に残るほどの生々しさでした。今年初めての熊の痕跡に多少の緊張感はあるものの、毎年、熊の足跡を春の指標の一つにしていた事もあり、やっと出てきたかと春を実感しました。

～指標生物から見る身近な暮らし～

指標生物と聞いてどういう生きものを指すのか、ピンとこない方もいるのではないのでしょうか。指標生物とは、環境条件をよく反映する特定の生物から地域の環境変化などを読み取り、様々な状態を測定するのに用いられる生物を指標生物と言います。(主に環境汚染の目安などに用いられる)

古くから人々は特定の生きものを観察することで生活に役立てきました。現代のような天気予報がない時代は「ツバメが低く飛ぶと雨」、「雪虫が飛ぶと初雪間近」、「カッコウが鳴きだすと畑に種を播く」など、昔の人は特定の生物と周辺環境との関係を読み取ることで、天気予報や作物の播種時期を判断する目安としてきました。身近な自然に目を向けることは、私達たちの生活と自然とのつながりについて気づき、そして理解する事で普段は見過ごしていた日常的な景色に対しても新鮮な目で見ることができるようではないのでしょうか。



季節の目安とされる指標生物と気象事象 ～大雪山編～

①フクジュソウ (早春)・②シラカバ樹液 (早春)・③エゾヤマザクラ (春)・④ウグイス (春)・⑤ウコンウツギ (初夏)・⑥オオイチモンジ (夏)・⑦ノゴマ (夏)・⑧ヒツジ草 (晩夏)・⑨エゾオヤマリンドウ (初秋)・⑩ナナカマドの実 (晩秋)・⑪トドネオオワタムシ (晩秋)・⑫霜柱 (晩秋)・⑬オオワシ (初冬)・⑭冠雪 (厳冬)

～放置されたエゾシカに依存するワシタカ類～

ここ数年、層雲峡周辺の国道沿いでは大型のワシタカ類が頻繁に確認されています。オオワシ、オジロワシ、クマタカは2月～3月にかけて目撃が多く、特にワシ類は一度に20羽程が観察されることもあります。しかし国道沿いに集まるワシタカ類の大半は、ハンターが放置したエゾシカに大きく依存しています。放置されたエゾシカは国道沿いに限らず、民家周辺にも投棄されており、春先はヒグマがその周辺を徘徊していることから問題となっています。放置エゾシカに依存する野生動物の生態環境が、今後どんな影響を受けるのか注意深く観察していかなければならないでしょう。



放置されたエゾシカの残骸とヒグマの足跡 (清川林道)



残骸に群がるオジロワシとカラス (国道39号線・陸万)



【日時】4月24日～5月9日

13:30～15:30



折って切って開いたら、あらすテキ♪
子供から大人まで楽しめます。

■ バードウォッチング ～愛山溪～

【日時】5月23日

【内容】大雪山麓に生息する野鳥を観察します。

■ 春山登山 ～三国山～

【日時】6月20日

【内容】3つの海をわける唯一の分水嶺を観察

■ 定点観測 ～紅葉谷～

【日時】6月12, 26日 7月3, 17日

【内容】定点地の花の開花状況、分布調査

★★観察会は事前申し込みが必要です★★

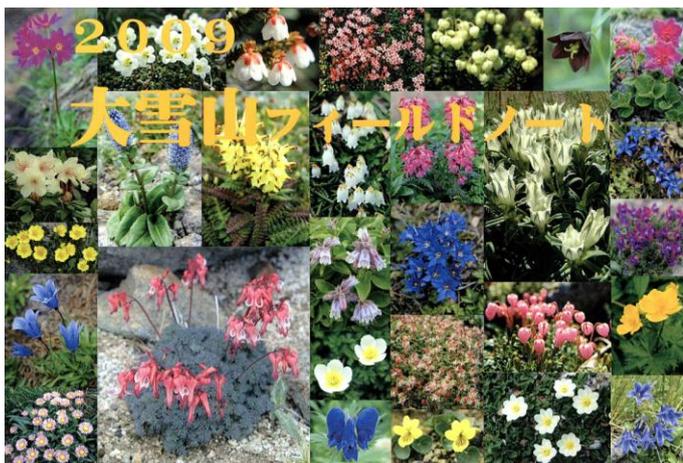
★★詳細についてはお問合せください★★

■ 2009大雪山フィールドノート 写真展

【日時】常時展示

【内容】一年を通じた大雪山のありのままの姿を
写真と解説文で紹介する。

【場所】ビジターセンターレクチャールーム



いもものカレンダー 

- 2/6最低気温-26度(層)、2/11オオアカゲラ(層)、2/13 シマエナガ・コゲラ(層)、2/15 クマゲラ(層)、2/21エゾクロテン(層)、2/22キクイタダキ・クマタカ(上)、2/23モモンガ(層)、2/25オオワシ・オジロワシ(上)、2/27 雪崩(層)、3/1 フキトウ(層)、3/4ホシガラス・エゾライチョウ(黒)、3/6エゾシカ(上)、3/7アカゲラ(黒)、3/7ゴジュウカラ・ミソサザイ(上)、3/9エゾクロテン(層)、3/13トビ(上)、3/17オジロワシ(上)、3/20エゾリス・ホオジロ(上)、3/21大雨(層)、3/29クマタカ(層)、3/30 積雪深 旭岳姿見駅280cm・黒岳7合目350cm・層雲峡110cm・旭川48cm、3/31 ハクセキレイ(層)、4/3 キレンジャク(上)、4/4モズ(上)、4/9フクジュソウ(上)、4/10 クマゲラ・最高気温+14度(層)、4/12ベニマンコ・コヒオドシ (上)、4/14大雪・最低気温-6度(層)、4/15 積雪深 旭岳姿見駅280cm・黒岳7合目390cm・層雲峡74cm・旭川1cm、4/16 ギンザンマシコ(上)、4/18 コハクチョウ(上)、4/20 ヒグマの足跡(層)、4/21 エゾモモンガ(層)、4/22 クマゲラ(層)、4/23 アメリカコハクチョウ(上)、4/24 大雪・ヒグマ(層)、4/25 ミズバショウ一部開花・トラツグミ(層)、4/28ウグイス・チゴハヤブサ(上)

* (観察地: 上/上川 ・黒/黒岳7合目・ 層/層雲峡)

発行:大雪山国立公園



TEL 01658-9-4400 / fax 01658-9-4401

HP アドレス <http://sounkyovc.town.kamikawa.hokkaido.jp/>

開館時間 6月～10月/8:00～17:30無休・入館無料

11月～ 5月/9:00～17:00月休(祝祭日翌日)